

2013年2月度 理事会報告

第11回運営会議報告

2月度理事会 議事

第1号案件「新会員の承認を求める案件」

平成24年12月6日の理事会以降、平成25年1月31日までの間に申請のあった個人正会員3名、個人正(シニア)会員1名の入会が申請通り承認されました。

第11回運営会議 議事

(1) 60周年記念事業報告

音の日(12月6日)の関連イベント「オーディオ協会60周年記念事業」が成功裏に終了したことが報告されました。

創立60周年を記念してJASジャーナル60周年記念特別号と記念CDが制作されました。会員各社の協力のもと431部(1/15時点)販売され、今後も引き続き販売すると共に、会員勧誘等に有効利用することが確認されました。

(2) 技術会議立ち上げについて

校條会長より技術会議の趣旨説明があり、意見交換、今後の予定が説明され、技術会議を進めることが確認されました。

技術会議趣旨は、オーディオ協会が取り組む「音楽再生環境の向上」の一環として「より良い音で聴いてもらう環境を作る」という、啓発提案を行っていくことです。今回、第一に取り上げるテーマは、ヘッドホン再生時の頭内定位問題です。デジタルホームシアター委員会でもとめた日本版ITU-Rのような提案をすることを目標とします。

また、「テーマ設定のきっかけは、2本のスピーカ

ーからの再生環境とヘッドホン再生の違い」

「ヘッドホン再生の課題は、前方定位、耳に対する圧迫感、周辺定位(サラウンド)の三つ」等の意見が出され、今後、ステアリングコミッティーを立ち上げ議論していくことが確認されました。

(3) 展示会開催について

平成24年音展は前年を上回る27,500名の来場者があり、事前登録者も前年比158%と目的明確来場者の増加と共に、UDXビルの集合ブース入場者アンケートで初めての来場者が5割あったことから、新規来場者も確実に増加したことが報告されました。また、関心のあるテーマは、従来のオーディオに加え、ホームシアター、ネットオーディオが上げられ、特にホームシアター関係セミナーは連日満席で、TVの地デジ化、大型化と共に映像音響への興味の高さが報告されました。

平成25年の展示会は、これらの傾向も含め、例年通り10月開催を目標に検討されることが確認されました。

(4) 平成24年度収支見込みと平成25年度予算の方向性について

平成24年度収支見込みは、音展収支がほぼ損益分岐点に落ち着き、60周年記念事業支出低減に加え、課題であったDHT資格講座運営が黒字になったこともあり、平成24年度の協会事業全体では若干の黒字化が達成できる見込みが報告されました。

平成25年度予算の方向性は、委員会活動を強化しつつも、DHT資格講座の黒字拡大、固定費の見直し等により、全体では収支ゼロを目指した予算化を行うことが報告されました。